

事例D：運動が苦手な体育の授業に参加しにくい高学年の児童

♥計画

指導仮説	授業における個に応じた手だて
A：粗大運動が苦手な、体育の授業に参加することに抵抗があるので、達成感や満足感を持てる指導や支援が必要である。	A：走る距離、内容や目標を担任と相談しながら決めて取り組む。場合によっては審判や記録係をすることで体育の学習に参加する意識や意欲を持たせる。 A：自分の走る距離を選ばせる。

◆実施（指導案）

- ・単元 持久走
- ・本時の目標
 - ・自分のペースにあった無理のない課題設定をすることができる。（思考・判断）
 - ・長く走り続ける工夫をしながら、同じペースを心がけて走ることができる。（技能）
- ・本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点 (個に応じた手だて)	教材・教具等	評価 評価方法
導入	準備運動をさせる。 本時のめあてを確認させる。	一斉 一斉	1. 準備運動をする。 2. ミニリレーをする。 3. 本時のめあての確かめをする。	・特に走る動きに必要な部分を意識して行わせる。 ・チームで走るコースを工夫させる。 自分の力にあったコースを選択するよう指導する。 ・同じペースで走ることの大切さを確認させる。	バトン	
展開	ペアでタイム目標の確認をさせる 1組目を走らせる。 2番組目を走らせる。	ペア 一斉 ペア	4. ペアごとに1周ごとの走る距離とラップタイム目標とゴール目標を確認する。 5. ペアは周ごとのタイムの記録をとる。 6. 走り終わったらペアではタイムの確認をし、ラップタイムを出す。	・ペアの友達に目標タイムやペースに応じての声かけの仕方を指導し考えさせる。 前時までの記録結果をもとに、達成感を味わえるように無理なく本時の目標を立てさせ、課題の解決を目指させる。 ・タイム計測を3人組にする。 ・目標タイムをより意識できるようにタイマーと読み上げの声でタイムを知らせ、そのどちらかに注意を払うように助言する。 励ましの声かけをする。 ペースが速くなりすぎないように助言する。	記録用紙 デジタルタイマー	自分のペースにあった無理のない課題を設定することができる。（思考・判断） 記録用紙・観察 長く走り続ける工夫をしながら、同じペースを心がけて走ることができる。（技能） 記録表・観察
まとめ	まとめ	一斉	7 今日活動を振り返って感想を出し合う。	・目標設定や走ったペースについて考えさせ、今後に生かすように助言する。 ・教室で各自の振り返りを書かせる。		

◆評価

A：自分の力にあったコース選択や励ましの声かけで、自分の目標や見通しを持って参加することができた。運動に参加できない時には記録係として、活動をしていた。
--